様式7 授業改善プロジェクト

アクション・リサーチのまとめ

英語教員指導力向上研修

受講番号 19011 学校名 岡豊高等学校 氏名 谷口 佐和

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生(少人数制) 生徒数 27 名

科目名 英語Ⅰ 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 Surfing English Course Ⅰ(文英堂)

クラスの様子・特徴

1年生2クラスを3分割した少人数制の講座である。習熟度別でないために、学力にばらつきがある。従順な生徒が多く、指示された活動に取り組むが、自ら考えて意欲的に取り組む生徒ばかりではない。

問題の確定

生徒が難しいと感じている文法説明など生徒が受身になる時間を最小限にし、生徒の活動を多く授業を組み立てることが必要である。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
指示された活動については積極的に取り組むが、文法事項の説明になると集中力が途切れがちになる生徒が多い。	ペア活動は積極的に参加できたか、内容を理解することができたか、等の質問に対して、「はい」か「大体」の回答が90%以上で、自由記述では、「面白い」「楽しい」「わかりやすく教えてくれている」等、概ね好意的な感想が多かった。	151語の長文を与え、1分30秒でどのくらい目を通すことができるかを計った。 27名中80語以上が3名、50～70語が9名、30～49語が10名、29語以下が5名、平均48．59語であった。

リサーチクエスチョン

生徒が自信を持って授業中の活動に参加し、英語がわかる、できるという実感を持てるように、基礎的な英語力をつけるにはどのような指導が効果的か。

仮説・実践・検証

仮説1 ⇒	実践1 ⇒	検証1
プリントを使用してペアで音読練習をし、自分が読めた部分に印をつけてもらいながら練習をすれば、生徒のやる気が向上するのではないか。	プリントを交換させて、相手が読んだところに印をつけさせた。 最初は、全部のペアが終わるまで音読練習させ、2回目は時間設定をして、3回目は短めの時間設定をしてその中でどのくらい読めるか競わせた。	ペア活動させたことで、生徒の参加姿勢に緊張感を保たせる効果があり、ほとんどの生徒が積極的に参加できた。しかし、速く読もうとするあまり、読み方がいい加減になっていたペアも見られた。
仮説2 ⇒	**実践2 ⇒**	**検証2**
英文の意味のかたまりを捉えることは生徒にとって難しいので、フレーズごとの和訳を先に渡し、音読練習をしながら、意味を捉えていくことで、英語をかたまりで理解しようとする習慣が身につくのではないか。	フレーズごとに訳を書いたプリントを用意し、①フレーズごとの音読 ② 英語を聞いて日本語訳を言う ③ 日本語訳を聞いて英文を読む 活動をペアで行った。	ペア活動については仮説1と同様、ほとんどの生徒が積極的に参加し、日本語の意味と関連付けながら英文を読んだり聞いたりすることができた。しかし、回数を重ねてくるにしたがって、緊張感に欠けるペアがでてきた。
仮説3 ⇒	**実践3 ⇒**	**検証3**
日本語訳と英文の音読を組み合わせた活動の後、ノートに記入させることで、生徒は内容をまとめながらノートを整理することができ、自分で工夫したノート作りができるのではないか。	仮説2の活動の後、本文と日本語訳をノートに書かせた。説明したい文法事項を板書し、生徒はノートに写した。	書かれている内容をある程度理解した後ノートに記入することで、ほとんどの生徒が、内容や英文の仕組みを整理しながら、ノート作りをしていた。

研究の成果

ペア活動をすることで、緊張感を保ちながら学習に取り組めた。英文を何度も読ませることで、英文を読む力がついてきたように思う。また、ある程度理解した後ノートに整理することで、学習内容の理解と定着が図れたように思う。1．5分でどのくらいの英文に目を通せるかという活動について、6月と、11月では平均で1．76倍(語数は34語)目を通した語数が増えていた。

授業評価を集計してみると、学習活動について、大多数が役に立ったと感じている。

今後の授業改善の課題

力をつけていると生徒自身が実感できる活動を、継続していかなくてはならない。今学期の活動についても、同じ活動をしていると、その活動に飽きてくる生徒が出てきたので、如何に生徒に飽きさせず、緊張感を持続させて活動に取り組ませるか、日々考えなくてはならないと思う。

リサーチについての問合せ先: 職場電話 088-866-1313 電子メール sawa_taniguchi@kt5.kochinet.ed.jp